

研究機関名：北見赤十字病院

研究課題名	オホーツク地域における脳卒中に対する気象条件の影響に関する研究
研究期間	2017年4月1日～2028年3月31日
研究の対象	2017年4月1日から2024年3月31日までに当院に脳血管障害にて入院した患者様を対象とします。
利用する試料・情報の種類	1. 診療情報：診療録、年齢、性別、現症、診断疾患名、発症場所、発症日時、神経学的所見、治療内容、治療経過 2. 放射線画像 3. 気象庁に掲載されている過去の気象データ
試料・情報の管理について責任を有する者	北見赤十字病院 脳神経外科 医師 藤川征也 北見赤十字病院 脳神経外科 部長 木村輝雄
外部へ試料・情報提供	予定なし
研究組織	<研究機関> 北見赤十字病院脳神経外科 藤川征也 北見赤十字病院脳神経外科 木村輝雄 北見赤十字病院脳神経外科 真田隆広
研究の意義、目的	<p>脳卒中の発症には気温や気圧などの気象条件が影響するとの報告は以前から存在しており、当院においても季節により入院患者数の変動が見られます。ケッペンの気候区分では冷帯湿潤気候(Dfb)に分類されるオホーツク地域ですが、非常に気温差が大きい内陸部と全体的に冷涼な沿岸部では気候が異なり、距離的に離れている北西部と南東部とにおいても気候には差があります。従ってオホーツク地域は単一の気象条件とは言えず、多くの環境素因を含んでいます。また屋外の環境因子だけではなく、屋内の室温や温度差や、年齢や既往症など患者本人そのものの因子も異なっています。このような多様な環境下において脳卒中患者はどのように気象条件の影響を受けるかどうかに関しては結論が出ていません。</p> <p>本研究ではオホーツク地域の脳卒中患者の半数以上が集中する当院において脳卒中の発症にはどのような気象条件やその他気候に関わる因子が影響しているかを調査し、気象条件が脳卒中発症に影響するという仮説を証明することを目的とします。</p>
研究の方法	(1)対象患者 2017年4月1日から2024年3月31日までに北見赤十字病院に搬送され、入院した全脳卒中患者

	<p>(2)除外基準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 本研究に同意が得られない場合 2. 発症日時が同定できない場合 3. 発症場所が同定できない場合 4. その他主治医が不適切と判断する場合 <p>(3)目的と評価項目 データの収集内容は電子カルテを参照し、診療情報(診療録、年齢、性別、現症、診断疾患名、発症場所、発症日時、神経学的所見、治療内容、治療経過、放射線画像)を習得します。また気象庁に掲載されている過去の気象データをインターネット上から取得して利用します。</p> <p>(4)リクルート方法 本研究は後ろ向き研究であり、実施機関の診療記録における情報を使用します。新たなリクルートは行いません。</p>
その他	<p>(1) 予想される利益 (効果) 本研究へ参加することにより対象者に直接の利益は生じないです。しかし、研究成果により将来の医療の進歩に貢献できる可能性があります。</p> <p>(2) 予想される不利益 本研究は、侵襲・介入を伴わない、診療録を用いた後ろ向き研究であり、患者又は家族に不利益が生じることはありません。</p>
お問い合わせ先	<p>本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。</p> <p>また、情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。</p> <p>照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：</p> <p>北見赤十字病院脳神経外科 北海道北見市北6条東2丁目1番地 TEL：0157-24-3115 担当：脳神経外科 藤川征也 脳神経外科 木村輝雄</p>